

災害を学び、備える方法

阪神淡路大震災から16年、グリーンシティ防災会発足13年、東日本大震災から半年、グリーンだより発刊20年をむかえ、「防災」への思いをお伝えします。

近年、多くの防災関連書籍が出版され「身の守り方」「災害への備え方」が、わかりやすく書かれています。阪神淡路大震災以前は、大きな書店でも数冊程度はありましたが、今や防災関連のコーナーができ、多くの専門家による各種の防災書籍が出版されています。阪神淡路大震災以降の大きな災害に関する写真グラフィアや、携帯用の防災便利帳に防災ガイド等様々です。でも、一般の人がわざわざ防災の書籍を選んで購入しているのでしょうか？実際には、新聞やテレビで防災情報を、入手しているのが大半ではないかと思えます。専門家の多くは、本気で「備え・構える」ことを伝えようとしています。しかしながら、東日本大震災であれだけの被害を受けても、他人事・絵空事にしか思っていない人がたくさんいるのも現実です。

さて、私は『なぜ防災の書籍にしか防災のことを掲載しないのだろう』と疑問に思えます。日頃から、あたり前のように週刊誌、マンガ本、スポーツ紙、趣味の本、ビジネス誌等の雑誌に「防災のこと」が、1ページ程度でも掲載されていれば、じっくり読んでしまうでしょう。私は、「防災」とはこのくらいで良いのではないかと思えます。繰り返し毎週、毎月、毎年ペースで、習慣的に掲載されていけばなおさら良いことだと思うし、連載ものにして楽しく伝えてもいいとも思うのです。

人が本気で防災に関心を持つとき、それは被災した瞬間！でも、時間と共に忘れていくのも当たり前のこと。年がら年中「防災」のことが頭から離れない人は、ほとんどいないでしょう。たまに思い出し、備えることを意識してもらうために「**したたかに伝えること**」が重要だと思います。

私は「**防災とは自分の大切な人を守ること**」だと思っています。でも、自分の命を守ることができなければ、大切な人の命なんて守れるはずがありません。行政から「自分の町は自分たちで守ろう」と声高に唱えられても、何のために自分の町を守らなければならないか、伝えている側も理解していないし判っていないから、「伝わらない」のです。自分は何を守り、それらを守るためには、何をどうすればよいのかを「伝わるように伝えなければならない」と思えます。また、「伝えることのできる人が伝えなければならない」とも思えます。

皮肉な言い方かもしれませんが、ひとたび災害が発生すれば多くの著名人がボランティアに出かけたり、派手な義援金集めもされています。それらを決して否定しているのではなく（むしろ賛成派！）、**災害発生後に役に**

立つ活動をしても「死んだ人は帰ってこない」これは紛れもない事実であり現実なのです。ならば「死なないようにしてもらうこと」を日頃から呼びかけることではないでしょうか。私は、この方がもっと現実味のあるボランティアではないかと思えます。**リスペクト**

（**尊敬する・敬意を表す・心服する**）している人から、「自分の命を守ろう」「自分の大切な人を守ろう」「家具の転倒防止もやろう」と発信してもらえらなら、今以上に「備え・構える人」が多くなるのは間違いないでしょう。それにより少しは「防災」に興味を持つようになるでしょう。また、人から教えられだけの防災から、自分から歩み出て学び考える防災に進化した結果、自分が本当に必要とするオリジナル防災ができあがり、オリジナル化をすると人はつつい発信（伝える）したくなります。発信された防災知識が共有化されれば、素晴らしい防災データができあがるのではないかと思えます。そのためにも、**今までの防災の概念はぶちこわして防災の常識にとらわれず、前に踏み出してみましよう**。迫り来ようとしている災害より、一歩先を行く自分の防災を考えましよう。そのヒントとなる防災を生活（くらし）の中で活かす方法「生活防災」をみんなで考えていきましょう。

こんな書籍があります。一見の価値あり！

単行本「**彼女を守る51の方法**」

監修：渡辺実

コミック「**彼女を守る51の方法**」

作画：古屋兎丸

単行本「**M8**」

著者：高嶋哲夫

コミック「**M8**」

原著：高嶋哲夫 作画：平松伸二

単行本「**TSUNAMI 津波**」

著者：高嶋哲夫

単行本「**東京大洪水**」

著者：高嶋哲夫

コミック「**アニマート**」

原著：高嶋哲夫 作画：八坂孝訓

歴史マンガ「**稲むらの火**」

原作：小泉八雲 作画：クニトシロウ

コミック「**激涛**」

著者：矢口高雄

コミック「**ぼくの街に地震がきた**」

原案：国崎信江 監修：目黒公郎

作画：名古屋裕

単行本「**非常持ち出し本**」

監修：グリーンシティ防災会

生き残るために一歩前進するのは

あなたの意志にかかっています！

